

みんなの思いが会場を熱くした!!

# 市民がつくる TVF 2011

Tokyo Video Festival for The People



2011年

1. 29(土)

会場  
日本工学院専門学校  
蒲田キャンパス  
3号館 10Fホール(31005 教室)



## 発表・上映会 レポート

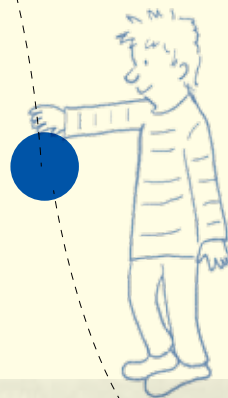
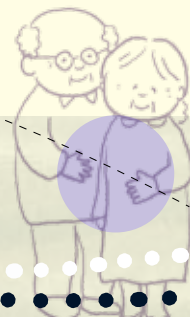
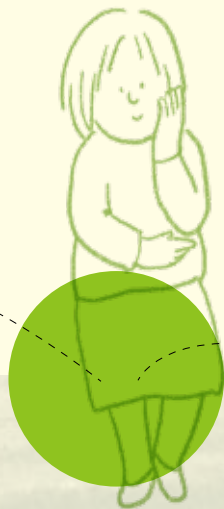


- 9:30 ~ 優秀 15 作品一挙上映
- 14:00 ~ 発表・表彰式
  - ・佳作 15 作品
  - ・優秀作品賞 15 作品
- 15:30 ~ ビデオ大賞作品上映・表彰
- 16:10 ~ 市民賞、筑紫哲也賞表彰
- 16:20 ~ 審査委員によるトークフォーラム
- 17:45 ~ 誰でも参加OK 市民ビデオ交流会 (有料制)

主催 NPO法人市民がつくるTVF

特別協賛 日本工学院専門学校

協力  
(順不同/敬称略)  
テレビ愛媛ビデオリポータークラブ  
星の降る里芦別映画学校  
NPO 法人湘南市民メディアネットワーク  
(株) 伸樹社/ビデオジャーナル  
(株) 玄光社/ビデオサロン  
いずみ窯  
(株) スブラシア  
西山洋一、三浦菜穂子、森本菜津美  
やなぎだ晶子





# 市民目線の作品に、あちこちから感嘆の声が上がった 市民がつくるTVF2011発表会



## ●ビデオ大賞発表・表彰

ビデオ大賞に選ばれたのは2作品。未来を担う若者や子どもたちが豊かな発想と個性溢れる表現力により今回の象徴としてのビデオ大賞に輝き、賞状とトロフィーが贈られました。



『城南子ども放送局～城南特別支援学校～』  
渡邊恭子さん（中央大学FLP松野良一ゼミ：東京都）



『近くて遠い学校』  
るみさん（東京都）

240名にもおよぶ映像ファンを集め、1月29日（土）、日本工学院専門学校・蒲田キャンパス10Fホールにおいて「市民がつくるTVF2011」の上映会、発表・表彰式を開催しました。事前に大手新聞や地元ケーブルテレビ等に取り上げられ、初めて足を運ぶ方も多数来場。会場の真剣な眼差しの中に、市民目線の映像作品の魅力や意味に感嘆の声があちこちに起こっていました。

## ●大手新聞による事前告知



事前に掲載された発表会情報（1/28読売新聞、1/29東京新聞）

## ●入賞作品上映会



優秀15作品をフル上映。早朝にも拘らず、地元の熱心な映像ファンがご来場。

## ●発表・表彰式



発表・表彰式の進行は日本工学院専門学校の2人の学生さん。開会挨拶するNPO法人小林はくどう代表理事。

## ●佳作表彰



佳作は15作品が選出されました。佳作を代表して表彰される日高道徳さん（広島県）

## ●優秀作品賞表彰



優秀作品は15作品が選ばれ、賞状と楯が贈られました。大林さんと作品についての思いを語る駒崎絵美さん（東京都）

## ●筑紫哲也賞発表・表彰



新設の筑紫哲也賞には大学生の渡邊恭子さん（中大FLP松野良一ゼミ）が選ばれ、賞状と楯が贈られました。

## ●市民賞発表・表彰



NPOサポーターの投票により選ばれた市民賞には平野隆弘さん（埼玉県）が選出され、賞状と記念品が贈られました。

## ●審査委員によるトークフォーラム

審査委員各氏が作品について熱く語る姿に参加者のみなさんはメモをとったり真剣に耳を傾けたり真摯な姿勢が目立っていました。



羽仁 進さん



高畑 勲さん



進行司会も務めた  
佐藤博昭さん



大林宣彦さん



小林はくどうさん

## ●市民ビデオ交流会

発表会のあとの市民ビデオ交流会は、入賞者、応募者のみなさんから審査委員や一般の方までが参加したオープン形式。作品についての意見交換から新しい仲間との熱いビデオ談義など、多くの方が楽しい時間を過ごし、再開を約束していました。



TVF入賞者であった、宮原美佳さん（NPO理事）は今回は交流会の進行も担当。

“私の思い”は映像となって、多くの人に語りかけ、観る人の真摯な眼差しは、感動と共感を広げた。



# 入賞30作品

市民がつくるTVF2011には海外を含めた277作品が寄せられました。その中から選りすぐられた入賞30作品は、そのどれもが市民の目線で表現された個性溢れる作品揃いです。

## 優秀15作品

優秀作品賞は、豊かな発想と優れた表現技術により、市民ビデオの広がり象徴となった作品です。

**●ビデオ大賞**  
**●筑紫哲也賞**

**城南子ども放送局**  
～城南特別支援学校～

**渡邊 恭子**  
中央大学FLP松野良一ゼミ  
東京都 21歳 女  
15分30秒

城南子ども放送局の車椅子リポーターたちによる元気と明るさに満ちた学校紹介。学校の大人たちは皆にこやかに親切に答えてくれるが但し少し建前。子どもリポーターは鋭い質問や自分の本音をすかさず述べるやり取りが絶妙。さわやかな知恵の深さを感じる。

車椅子に乗った障がい児五人がマイクを手に、級友から送迎バスの運転手さんまで、インタビューしながら自分たちの学校を紹介する。決めた台詞をはみだして、生き生きと自分を出す。明るい。「これでいい?」と、カメラの方へ目を送るのは、きっと制作者の大学生へ寄せる信頼の現れ。こんなに心地よくていいの、というほど心地よい、人を幸せにしてくれるすばらしい作品 (高畑 勲)

**●ビデオ大賞**

**近くて遠い学校**

**るんみ**  
東京都 26歳 女  
14分00秒

2010年4月から日本政府は外国人学校を含む高校授業料無償化を実施したが、朝鮮学校は問題ありと保留にしている。この問題を日本人、朝鮮学校卒業生、外国人学校で学んだ外国人にインタビュー形式で取材したもので、次第に在日に対する偏見が浮き彫りになる。

これには、ひとつ一つの言葉が、映像と共に光っています。作者は対象を愛している。そのために、決して視線が曇っていない。未来の社会が、もつべき態度がそこにはあるのです。日本も当然その中に含まれていく多民族のまじりあう地域が、何を求めていくのか、私は感動しつつ学びました。(羽仁 進)

## ●ビデオ大賞

ビデオ大賞は今回の象徴となる作品で優秀15作品の中から審査委員会により選出されました。

**●ビデオ大賞**

**天使の惑星**  
神奈川県立 弥栄高等学校 ARTLIVE  
神奈川県 20分  
高校生たちが演じた舞台での総合芸術パフォーマンス。ハイパーメディアを駆使した構成。近未来に、月に住む若者二人が対立し、砂漠化した地球に追放され、格差社会の中で希望を見つけ出す。

**●ビデオ大賞**

**山内 義徳**  
愛媛県 78歳 男  
5分49秒

肱川嵐とは初冬の寒い早朝、発生した霧が愛媛県西岸にある大洲盆地から肱川を下り、白い霧を含んだ強い風が海側に抜け出る絶景の現象だ。但し撮影のタイミングは難しいらしい。作者は地元に住んでいる強みを発揮して、満を持した撮影スポットが見事である。

## ●筑紫哲也賞

筑紫哲也賞は、日本を代表するジャーナリスト故筑紫哲也さんのご遺族のご厚意により実現した新しい賞で、入賞30作品の中から選出されました。

## ●市民賞

市民賞は入賞30作品の中からNPO法人市民がつくるTVFのサポーターのみなさんからの投票で最高得票作品に贈られました。

## 佳作15作品

佳作は豊かな発想と優れた表現技術で市民ビデオの可能性を広げた作品です。

**●ビデオ大賞**

**山内 義徳**  
愛媛県 78歳 男  
5分49秒

肱川嵐とは初冬の寒い早朝、発生した霧が愛媛県西岸にある大洲盆地から肱川を下り、白い霧を含んだ強い風が海側に抜け出る絶景の現象だ。但し撮影のタイミングは難しいらしい。作者は地元に住んでいる強みを発揮して、満を持した撮影スポットが見事である。

**x y**  
石原 奈知  
滋賀県 22歳 女  
1分53秒

砂絵で描いた食物連鎖のアニメーション。生命が誕生し、小魚が大魚に喰われ、大魚は鯨に、蛙は蛇に飲み込まれ、孵化した蝶は蛙に、蛙は兎に、兎はフクロウに、更には獣たちが、そして人間たちが。

**●ビデオ大賞**

**団地はパニック!**  
日高 道徳  
広島県 58歳 男  
10分38秒

2010年7月14日朝、大雨が降り、団地を襲った土石流に住民である作者は原因を探ろうとする。山からの水と団地雨水を流す放水路の網穴が木々で詰まっていたことを発見し、住民総出で修復に当たる。

**●ビデオ大賞**

**日常という支配について**  
松山 毅  
大阪府 27歳 男  
6分38秒

心の中にある負の葛藤を表現しようとしていて興味深い自画像ビデオ。自分は外見で評価されず、常識に疎外されてきたと語る作者。夢と現実が入り混じった不安な無力感を語る。

**●ビデオ大賞**

**落書きの壁**  
清水 まり子  
兵庫県 58歳 女  
3分00秒

100年近く建っていた母屋を取り壊すことになった。貴重な財産は玄關の土壁に描かれた幼い娘の落書き。取り壊しの日の朝、一对のホオジロが屋根に留まっていた、両親に見えてくる。

**●ビデオ大賞**

**懐かしき、あの頃**  
吉野 和彦  
長野県 49歳 男  
19分31秒

医者同士が結婚し、妻が妊娠した。夫は産婦人科医で胎児の超音波診断しながら、趣味のビデオで妻との会話を撮り続ける。初めは新婚のよそ行きだった会話も、胎児の成長とともに普段着になっていく。

**●ビデオ大賞**

**山里に生きる**  
佐藤 哲郎  
宮崎県 63歳 男  
18分23秒

宮崎県は家畜伝染病口蹄疫被害で大量の牛を屠殺した。横綱級牛5頭が尾八重に隔離された。尾八重は19名の限界集落。菅孝雄さんが中心となって里の人たちを巻き込んで、コミュニティの活性化に取り組んでいるが、若夫婦が転居してきたことで光が指してきた。

**●ビデオ大賞**

**MY MODE**  
池田 稔  
栃木県 64歳 男  
6分14秒

2画面合成。1つが調理画面。2つが英会話の授業風景画面。共通性がまったくなく、見ている脳が違和感を覚える。英会話画面で作者が登場。生キャラメルレシピを解説。急に共通性が出たため、違和感が興味に代わる。最後に1画面で試食。食べたくなる作品。

**●ビデオ大賞**

**アポを訪ねて海南島**  
駒崎 絵美  
東京都 35歳 女  
18分38秒

年末から年始にかけ、中国最南端の島、海南島に住むアポ7人を訪ねる日本女性4人組。アポとは現地語でおばあちゃんの意で、70年前第二次大戦で侵略した日本軍によって性暴力が行われた被害者の女性たちだ。賠償裁判の垣根を超え、親愛な交流が更に深まる。

**●ビデオ大賞**

**ある畑の物語**  
～茨城県守谷市～  
長妻 洋  
茨城県 72歳 男  
9分38秒

趣味の畑を荒らすのはネットにかかっていたくちばしが長い野鳥で、慌てて放してしまうが、正体を知りたい。夜中、わなやビデオカメラを仕掛けると驚くことに狸、野鳥が写っていた。都市化した茨城で畑のひとりのエピソードから作者が環境問題に興味を持ち出す。

**●ビデオ大賞**

**カンパネラ**  
加藤 秀樹  
埼玉県 51歳 男  
14分00秒

私的ドキュメンタリーに拘ったドラマ。自分の息子が移植手術を受ける日、息子を喜ばせようとカシオペア号のビデオ撮影に出かける。帰路、盗撮と勘違いされ、トラブル事故死し、ドナーになってしまう。

**●ビデオ大賞**

**間**  
高田 涼平・三好 萌加  
京都府 19歳  
9分30秒

計算されたコミカルなドラマ。二つの画面が並列に並び、それぞれの画面で男女が同時に日常の様々な行為を行う。相似形のように、同じ時間軸の中で展開する。最後に二つの画面をつなぐ隙間が大きな役割を演じる。

**●ビデオ大賞**

**イ・ナ・カ・ヘ! ~愛しい日常のはじまり~**  
白木 美和  
山口県 40歳 女  
19分50秒

一家が田舎暮らしを始めた。自然に囲まれた自給自足の暮らしをビデオカメラで描く。13軒の小集落での祭事、ご近所から魚や野菜の頂き物などおもてなし交流もあるが、食肉として鶏を絞めた初めての辛い体験も味わう。

**●ビデオ大賞**

**ゆらのの森の家族**  
～鷺野さん一家の暮らし～  
森川 雄一郎  
田頭 真理子  
山形県 15分30秒

限界集落ゆらのの森に住む鷺野陽子さんは首相官邸での鳩カフェに出席し、都会人の漠然とした不安に対し、解決につながる歴然とした不安の違いがある事を感じ、わが子には、自給自足の中で「生きる力」をつけさせたいと願う。豊かさとは何かを改めて考える作品。

**●ビデオ大賞**

**猛暑 親爺の呟き**  
青柳 完治  
群馬県 79歳 男  
4分33秒

今年の猛暑をモチーフにつくられた愉快な作品。買い物をしてアイスキャンデーは溶けて水に。シシャモは干物に。卵はなんとゆで卵になってしまう。それなら太陽の熱を使ってペットボトルでお湯を沸かし、食事や風呂の湯に使ってしまうアイデアを実行する。

**●ビデオ大賞**

**TIME SLIP**  
仙波 晃  
東京都 71歳 男  
16分10秒

定点観測映像の記録は時間と違和感が面白い。多摩川を渡る鉄橋で、新幹線と並走する横須賀線は以前品鶴線と呼ばれた。新幹線が多摩川を渡る17秒を軸に、父親撮影の1936年の8mm、作者の1991年と、2010年のビデオが交差し、時空を超えた風景を再現する。

**●ビデオ大賞**

**海の人**  
薩摩 浩子  
神奈川県 23歳 女  
6分49秒

人はどこから来て、何をして、どこへ行くのだろうか。この作品では人は海から誕生し、波に揉まれ、海中で生き、水の宇宙の中で溶けていくイメージだ。音楽と同調して波の重なり、水面の揺らぎ、海中の人の表現など独特の砂アニメの描写が魅力的である。

**●ビデオ大賞**

**恩返し**  
村上 直子  
滋賀県 22歳 女  
4分12秒

民話「夕鶴」にオレオレ詐欺をモチーフにしたアニメ落語。鶴が籠にかかっていたのを助けたお爺さんの家にきれいな娘が泊まり、恩返しかと思って期待したのだが、家財が盗まれ、新車のサギだった。

**●ビデオ大賞**

**鏡の国のM**  
田井 庸介  
東京都 43歳 男  
18分25秒

女子中学生の淡い恋心を描いたドラマ。女子中学生Mの片思いの相手は、左利きの女の子が好みだ。Mは変身のカードに鏡の中の私になりたいと願う。すると鏡の中のMに変身してしまう。

**●ビデオ大賞**

**東京陸軍航空学校少年飛行兵の記憶**  
野口 真菜美  
東京都 22歳 女  
10分00秒

第二次世界大戦で特攻隊として亡くなった少年飛行兵を育てたのは東京陸軍航空学校。卒業生290名が戦死した。不時着で助かった元少年飛行兵の慟念の念のインタビューが教育の怖さを語る。

**●ビデオ大賞**

**伊藤新道のミヤマモンキ**  
<30年ぶりの高瀬川遊行>  
御法川 直樹  
神奈川県 51歳 男  
12分40秒

中学以来30年ぶりに槍ヶ岳を源流とする高瀬川を遊行。通行不能とされていた伊藤新道を沢登りし、念願の高山蝶ミヤマモンキの生息地に辿り着く。高山蝶と山草を愛する作者は山荘の古老から聞いた、溪流の崩壊はダムによる水ぶくれの影響の説に力点を置く。

**●ビデオ大賞**

**ろくろくの絆**  
市民賞  
平野 隆弘  
埼玉県 72歳 男  
19分28秒

六本木は超高層化することで、街路や遊歩道をつくり、緑地公園を守り、ビルの屋上まで緑が溢れ、昔からの文化が共存するというコミュニティが実現した。この再開発事業を推し進めたのがろくろくと呼ばれる昔からの町内会住民たちであり、その歩みの記録。

**●ビデオ大賞**

**かたつむり**  
寺田 英雄  
茨城県 90歳 男  
8分18秒

梅雨空に似合うのはユーモラスなカタツムリ。陸に住む貝と知っていても、その生態となると知らないことが多い。肺で呼吸し、4本の触覚、歯舌、腹足、口腔、雌雄同体、この作品はわかりやすく解説で優れた教材だ。高齢な作者とは思えないカメラワークに感心する。

**●ビデオ大賞**

**Crazy Park**  
謝 銘 修  
台湾 28歳 男  
19分20秒

民話の人形芝居と実写を組み合わせた格差社会の寓話。貧乏村のきこりと金持ち村の貴婦人がハッピー村でくじを引くと願いがかなうと言う。様々な運命が変わり、きこりの書いた「クレジーパーク」は飛ぶように売れるが、盗作の疑いがかかる。貴婦人は財産を失う。

**●ビデオ大賞**

**祈りのある風景 琉球の信仰**  
河辺 明彦  
新潟県 75歳 男  
9分00秒

沖縄には海のかなたに神が豊穡を約束してくれる楽土「ニライカナイ」があると信じられ、その神を祭って拝む所をウガンジュと呼ぶ。各地の聖地で家族などの祈りの風景をレポートする。

**●ビデオ大賞**

**鮫五郎さん回想の旅**  
阿部 秀次  
岩手県 70歳 男  
7分55秒

水沢に住む鮫五郎さん93歳、一人暮らし。国鉄職員として働いていた駅を再訪する。平津戸駅など4つの駅はすべて無人駅になっていた。彼の心の中には辛かった思い出が爽やかに蘇ってくる。

**●ビデオ大賞**

**甦る海**  
大隅 楠夫  
神奈川県 67歳 男  
7分25秒

スキューバダイバーが増え、観光化してしまったシバダン島。海は魚も少なく寂れた海になってしまっていたが、マレーシア政府の厳しい入島制限で、海が蘇った。100匹のギンガメアジの群れが凄い。





みんなが生み出す明日への情熱と知恵

# 市民がつくる TVF2011

審査委員総評

僕にはアポたちの声がきこえるか。

大林宣彦

(映画作家)



映像の持つ原初的な力に、いま改めて惹かれている。海南島の時の中に棲むアポたちの顔の皮膚が刻んだ表情は、ただ逢いに行くしか術の無い現代日本の娘たちの、その行為のみによって純粋により深く、ある事を物語り始める。いまこそ日本の戦争と敗戦後史を繙く季節。僕はアポたちの聞こえぬ声に耳を傾け、日本の無自覚な平和を問いつつ、陽射しの中のかたつむりを凝視する。山里に、ミヤマモンキに、イ・ナ・カへと誘われゆく。作品、の制度とは何か。時にその制度が素材の純度を汚しちまってははいないか。映画芸術、からより自由になった筈のビデオの純潔は、いまも守られているか？ 制度の成熟を示すべくや子ども放送局に敬意を表しつつも、僕はずっとアポたちに見つめられている。この視線からは逃れてはならぬ。ただその視線に向き合う事から、僕は自分が生み出す映像の無力を恥じ、何を見つめ、どう行動するかを考えている歳の暮であります。

生きがい、ふれあい、生の喜び

小林はくどう

(ビデオ作家、成安造形大学名誉教授)



このフェスティバルの意義はマスコミとは違った市民目線の表現や video communicationの可能性について検証していくことです。『MY MODE』は俳句や4コマ漫画の面白さに似た可笑しさがある作品で、映像の実験として新しい提示をした興味深いものです。夏の暑さは本当に辛いものでしたが、暑さを表現した『猛暑』は落語感覚で、生活の中の可笑しいアイデアがいろいろ湧いてくる作品で元気にさせてくれます。『TIME SLIP』は時空間を超えたあやとりに思えました。温もりが蘇ってきます。『城南子ども放送局』は大人たちの建前に対し、子どもたちの機智的な本音が効き、自分の存在と相手の存在を認め合う礼儀正しさが光りました。作者の大学生たちとの密着感が良く、『アポを訪ねて』にもそうした配慮があればいい作品になったと思います。今回田舎暮らしの作品に勢いを感じました。生きがいとふれあい、生の喜びの豊かさが問われている時代なのだと感じます。

「市民がつくる TVF」という場所の力

佐藤博昭

(ビデオ作家、日本工学院専門学校講師)



TVF2011の最終審査を終え、277作品という応募数が数字以上の大きな意味を持っているように思われた。TVFが「市民がつくる」という言葉を冠した時、市民がつくるのはTVFというイベントではなかったはずだ。TVFが持ち続けた意志は「ビデオという道具を使い、人々が自分自身を、あるいは自分自身が共鳴した何かを表現し伝えること」であったはずだ。その意志は「共有」と「活用」という言葉を伴って、より力強く観るものに迫る。場所の力というのは、そこに集まった人たちの、それぞれの歴史、体験、言葉、意志が固有の風景を作り出すエネルギーである。TVFという風景は明らかに変わりつつある。それは作品を評価する場所の変化にも現れている。審査委員だけでなく、TVFを支え、そこに思いを寄せるNPOの理事、支援者が作品への思いを語った。だから、選ばれた作品は「市民がつくるTVF」という新しい風景にふさわしい。入賞者の皆さんは、この場所の力の礎でもある。

好感と違和感のあいだで

高畑 勲

(アニメーション映画監督)



入選作は今年もヴァラエティに富んでいたが、エコロジカルな実践のルポルタージュが四本あり、一つの傾向を示して目をひいた。農業者の実践をきちんと真面目に取り上げた『山里に生きる』以外、迷い込んできた正体不明の鳥から農家が環境変化を知る『ある畑の物語』、農村に移り住んだ人の生活を撮った『ゆらの森の家族』『イ・ナ・カ・ヘ♪』の三本とも、撮る側も撮られる側も肩の力を抜いた普段着姿で、肩肘張らない気軽なレポートというおもむきに仕上がっている。この傾向は、朝鮮人学校無償化をめぐるインタビュー『近くて遠い学校』、元従軍慰安婦を見舞う旅の同行ルポルタージュ『アポを訪ねて海南島』のような、扱われている問題の「根」が深刻な場合でも似ていた。問題を抉ろうとか教えてやろうとかの姿勢はなく、人々の意見や行動する姿をそのまま並べてみせる、このような方法は本来好感が持てるはずなのだが、中には大きな違和感を覚え、作者が突っ込んだり整理したりすべきではないのかと思わざるをえないものがあつた。

市民がつくるTVFの暁の光

羽仁 進

(映画監督)



今年は、審査にあたり、胸の中に熱い気持がこみあげてきました。判りの悪い私としては、このTVF運動の中にある光が、十分に受けとめ切れていなかったせいです。しかし、それが私なりに、二本の光、いづれもとても大切な、そして胸をはずませるような光を感じました。一つは、それぞれの思いをもつ市民の皆さんが、その違い故に、かえって虹のような光をかもし出してくれる可能性です。池田稔さんの『MY MODE』、青柳完治さんの『猛暑』、長妻洋さんの『ある畑の物語』、みなとても面白い個性が光っています。そして、それが絡み合いながら環を作っていくと、かつての俳句等の多人数での連作を超えそうだと一人嬉しくなりました。もう一つの光は、マス・コミとは全く違う現場から発信されるコミュニケーション。るんみさんの『近くて遠い学校』には、未来の社会につながる複雑な、しかしそこにこそ明日がある視点が、美事に示されています。



NPO法人 市民がつくる TVF ..... <http://tvf2010.org/>

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-16-2 こらぼ大森 2 F  
TEL: 03-6404-6613 FAX: 03-6404-6614 Eメール <info@tvf2010.org>

(2011年3月作成)